

労働争議発生件数および参加人員

	総数		争議行為を伴ったもの								第三者関与	
			総数		同盟罷業		同盟怠業		工場閉鎖			
	件数	人員	件数	人員	件数	人員	件数	人員	件数	人員	件数	人員
昭和35年	40	12,819	27	11,556	19	8,021	8	3,535	—	—	—	—
36	52	48,177	43	46,610	37	35,853	9	11,225	—	—	—	—
37	48	18,507	35	14,667	33	14,053	7	2,615	2	367	13	3,840
38	60	32,879	45	29,514	30	12,004	24	6,737	—	—	15	3,365
39	43	35,052	34	(43,312)	23	(43,312)	18	10,757	—	—	9	394
賃上げ	32	33,776	30	(41,470)	19	(41,470)	17	10,427	—	—	2	191
その他の賃金	1	737	1	(777)	1	(777)	1	330	—	—	—	—
臨時給支金	7	371	1	729	1	579	—	—	—	—	6	197
退職金支給	1	6	—	—	—	—	—	—	—	—	1	6
その他	2	162	2	(892)	2	(892)	—	—	—	—	—	—
				162		162						

注 1 争議行為を伴う争議のうち1争議で2形態の争議を行つたところがあるので一致しない。
 2 昭和39年分の争議行為を伴う争議行為の中に第三者関与がそれぞれ1件含まれている。なお()の数字は延人員である。

職業紹介状況

一般

	月間有効求職数 (月平均)	新規一般求職 申込件数	月間有効求人数 (月平均)	新規一般求人数	紹介件数	就職件数
昭和38年	15,208	51,460	35,268	90,591	34,262	24,042
39	13,530	40,068	13,847	54,814	...	13,131
男女	5,805	20,682	4,507	20,918	...	7,349
	7,725	19,386	9,340	33,896	...	5,782

注 1 昭和38年分は新規学卒者を含み、また同年は歴年調査のため39年の1部分を含む。
 2 昭和39年分は新規学卒者を含まない。資料 商工労働部職業安定課

日 雇

	月間有効求職数 (月平均)	求職総延数	新規求人数	就職件数	就職実人員	日雇求職者の 一般就職件数
昭和38年	5,098	1,010,773	979,416	966,401	4,341	74
39	4,085	903,717	...	832,420	3,718	...
男女	2,641	570,638	...	510,281	2,468	...
	1,444	333,079	...	322,139	1,250	...

同上

産業別求人就職状況

総数	昭和37年		昭和38年		昭和39年		
	求人	就職	求人	就職	求人	就職	
						1~3	4~12(充足)
	30,843	12,056	47,457	11,640	54,525	—	—
農業・狩猟業	35	34	130	4	1,030	1	
林業・水産養殖業	38	32	13	10		100	
漁業・水産養殖業	398	345	241	234		252	582
建設業	115	9	97	2	27	4	3
製造業	2,357	523	1,774	434	2,756	119	521
繊維工業	17,049	5,355	33,970	6,236	39,326	1,645	5,802
窯業・土石製品製造業	4,731	849	15,367	1,401	22,171	241	1,535
鉄鋼製品製造業	2,284	599	2,326	683	3,498	203	550
金属製品製造業	1,432	793	2,304	565	2,252	150	357
機械・武器製造業	765	286	755	375	717	77	158
電気・機械器具製造業	1,365	706	2,319	666	2,485	216	796
卸売・小売業	1,471	531	5,645	529	2,078	186	360
金融・保険業	5,370	2,310	5,742	2,560	5,994	607	2,045
運輸・通信業	281	60	258	54	243	12	81
電気・ガス・水道業	2,109	1,134	1,915	896	1,922	215	700
サービス業	70	54	134	75	65	20	25
	2,764	965	2,871	876	3,162	252	729

注 1 昭和39年分は金融保険業欄に不動産業を含む。 同上
 2 昭和39年分は就職者分類が改正されたため、本表表頭昭和39年欄中就職の区分を記号1~3と4~12で表示したが、この意味は次のとおりである。
 (イ) 1~3は自職業安定所の有効求職者が安定所の紹介のあつせんにより一般求人と結合したもの。
 (ロ) 4~12(充足)は自職業安定所の有効求人が安定所の紹介あつせんにより求職者と結合したもの。